

鹿児島教区4代目司教として 中野裕明司教叙階・着座



〒892-0841
鹿児島市照国町13-42
カトリック鹿児島司教区
電話099 (226) 5100
振込口座 02030-2-8359
編集発行 教区広報部
1部60円年間千共1100円



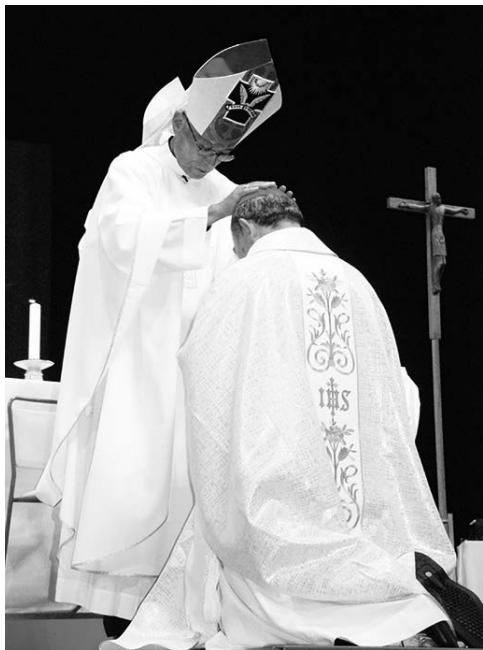
「まず、神の国とその義の求め」をモットーに

郡山健次郎司教から任を受け継ぐ

7月7日、教皇フランシスコからパウロ郡山健次郎司教の後任として鹿児島司教に任命されたフランシスコ・ザビエル中野裕明被選司教の叙階式が、10月8日（月）午後1時から鹿児島市の宝山ホール（県文化センター）で行われた。会場には1100人余りの信者らが駆けつけ、教皇大使、日本の司教団、日本各地から参列してくれた司祭団と共に、これまで鹿児島教区を導いてくれた郡山健次郎司教への感謝の意を表すと共に、新しい牧者の誕生を心から祝った。

7月に郡山健次郎司教の後任として、教皇フランシスコから鹿児島教区司教の任命を受けていた中野裕明被選司教が10月8日の司教叙階式（於：宝山ホール）で、鹿児島教区第4代司教として叙階され、着座した。

午後1時から始められた叙階式ミサでは、祭壇が設置された宝山ホールステージに主司式の郡山司教と叙階を受ける中野被選司教をはじめ教皇大使を含む約20人の司教団、全国から駆けつけた約80人の司祭たちが上がった。福音朗読（ヨハネ10・11）後に始められた叙階の儀では、まず「聖霊の続唱」が歌われ、その後、司教総代理・泉浩二神父が郡山司教に受階者を紹介した。これを受けて郡山司教が「使徒座任命書」の有無を尋ねると、それをまず教皇大使チェノットウ大司教がラテン語で、続いて事務局長の末吉卓也神父が日本語で朗読した。その後は、中野被選司教



中野被選司教に授けられる郡山司教

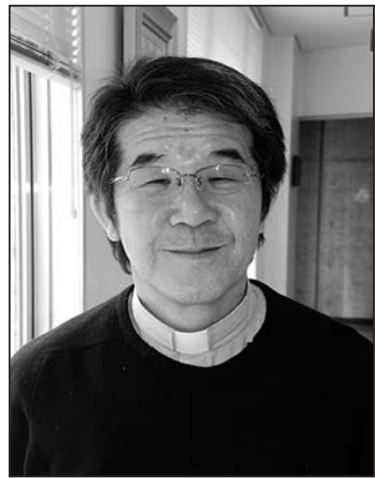
大松正弘神父が帰天

新司教誕生の喜びの余韻のうちに

レデンプトル会のジェラルド大松正弘神父が10月8日（月）夜、同会鹿児島修道院（鹿児島市東谷山2-33-13）で、心筋梗塞を起し神のみもとに召された。61歳だった。新しい教区長誕生の瞬間に立ち会うために中野司教叙階式に参列し、その祝賀会場で後に数時間後に亡くなった大松神父の早すぎる訃報に皆が驚いた。

大松神父は、1957年8月25日、京都府与謝野町加悦に生まれた。高校卒業後、大阪市役所環境事業局に勤務。レデンプトル会の門を叩いたのは1980年のことだった。その後、

諸聖人の連願へと進んだ。集まった大勢の信者たちの叫びにも似た連願が会場を包みこんでいる間、床に伏していた中野被選司教は連願が終わると起き上がり、つて跪き郡山司教から始まった司教たちからの静かだが願いの込められた授けを受けた。授けの後には、跪いている被選司教の頭上に福音書がかざされ、司教団による「叙階の祈り」がさげられた。そして被選司教には聖香油が塗られ、司教職のしるしとして「忍耐と知識の限りを尽くして、神の言葉のべ伝えるよう」福音書を、忠実のしるしとして指輪が、そしてミトラ（司教帽）、牧者の務めのしるしバクルス（牧杖）が授けられた。これらを受け取った中野司教は、郡山司教の招きで司教座に座り、司教団に受け入れられた。これらの儀式を終えた中野裕明



同年4月から南山大学文学部神学科の聴講生となり、1982年3月、初誓願を宣立した。司祭に叙階されたのは、1987年3月21日。叙階後は母間教会で助任司祭、天城幼稚園副園長と

年からはずっと鹿児島教区で働き、谷山教会、出水教会、母間教会、川内教会で司牧、また隣接の幼稚園の園長を務めた。最後の赴任地となったのは2017年に赴任した母間教会だっ

た。大松神父との別れの式は仮通夜（10月10日）、通夜（11日）、葬儀ミサ（12日）といずれも同会鹿児島修道院のある谷山教会でしめやかに執り行われた。仮通夜で説教した頭島光神父（レデンプトル会・谷山教会主任司祭）は、レデンプトル会入会前から友人として、また修練期を一緒に過ごしてきた兄弟として数々のエピソードを披露し、大松神父の人となりを偲んだ。翌日の葬儀ミサは中野裕明司教が司式し、また説教を母間教会で共に働いていた同会の福岡英雄神父が行った。また大松神父、最後の赴任地となった母間教会（徳之島）では10月14日に追悼ミサをささげ、神父の永遠の安息を祈った。

福者レオ税所七右衛門 殉教祭

11月3日（土）

プログラム

- 11:00 集合・受付
（薩摩川内市6232）
- 11:40 巡礼行列
- 12:20 殉教祭ミサ
（京泊天主堂跡地）



主催：カトリック鹿児島司教区

司教は、教皇大使をはじめとする司教たち一人ひとりと抱擁を交わし、感謝の典礼への司式へと入った。ミサの終わりにには祝賀式があり、日本司教団を代表して高見三明長崎大司教が祝辞を述べた。その後は祝電披露の後に、中野司教、教皇大使、郡山司教に花束が贈呈された後、司祭団を

代表して司教総代理の泉浩二神父が、信徒を代表して大熊小教区の松原千里さんが挨拶し新司教を迎える喜びを語った。その後は、集まった大勢の信者たちに新司教からの祝福が送られ叙階式を終えた。叙階式後は会場をサンロイヤルホテルに移し、新司教を祝う宴があった。

中野裕明司教の紋章



Quaerite autem primum regnum Dei et justitiam eius

まず、神の国とその義を求めよ（マタイ 6・33）

「まず」とは日常生活での優先順位を指します。思い悩むなというイエスの論し（マタイ 6・25～34）の結論として、「何よりもまず」（新共同訳）あるいは、「何はさておき」という意味です。

「神の国」とは本質的にはキリストにおいてすでに始まった終末的な国ですが、同時に各時代の人々とともに発展してゆくものです。愛と正義と平和と真理によって成り立っている神の支配を指します。

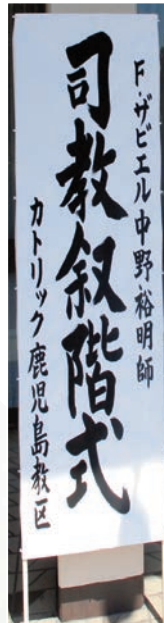
「神の義」とは人類を救おうとする神の憐れみあふれる誠実を意味します。同時にそれは、人間に要求する通りの義を人間の中に作り出していく恵みでもあります。

紋章の説明

手を広げているキリストは愛、はかりは正義、鳩は平和、聖書は真理のシンボルです。背景の赤は日本に初めてキリストの福音をもたらした聖フランシスコ・ザビエルの情熱を表し、青は海の色と同時に、神との対話に沈潜する祈りを表現しています。

紋章の十字架についている5つの赤い点はキリストの十字架上での5つの傷を象徴しています。

使徒座任命書を朗読する
教皇大使チエ
ノットウ大司教



熱い祈り「連願」が唱えられる



聖書を頭上にかざして司教団が叙階の祈りを唱える



正装の中野裕明鹿児島司教



郡山司教からバクルスを渡される



着座した中野裕明司教



叙階式後に司教団で記念撮影

使徒座任命書

神の僕たちの僕、司教フランシスコは、

鹿児島教区司教であり、これまで日本カトリック神学院院長を務めてこられた親愛なる中野裕明鹿児島被選司教様に挨拶と使徒的祝福をおくりします。

イエスは、わたしに、謙遜の模範に倣うように、そして心おごらず、高きに目を向けず、大きなこと、わたしたちの力の及ばぬ驚くべきことを求めず、母の胸に憩う幼子のように、心安らかにいるよう（詩篇130〈131〉1～2）諭されます。それで、わたしは単純な心で、喜んですべてを神におさげしたいと思います。さて、この子どものような主への信頼をもって、わたしは、このたび鹿児島教区教区長パウロ郡山健次郎司教が引退されて、新しい牧者、教区の責任者が与えられるのを待っている鹿児島の羊の群れの切なる思いに心を寄せています。そして、中野司教様、あなたのことを考えました。あなたは、さまざまな事に習熟し、霊的な、また人間としての資質に恵まれていることを示してこられ、このたびの務めを果たしていく

にふさわしい方であることが分かりました。

そこで、福音宣教省の見解をうかがい、わたしの使徒的権能をもって、あなたを鹿児島教区司教に任命します。同時に、教会法の諸規定によるすべての権利と義務を付与します。司教叙階式については、ローマ以外の地で、カトリック司教であればいかなる司教によっても行うことができます。その前にまず、教会法の規定に従って、信仰宣言を行い、わたしとわたしの後継者への忠誠の約束をしてください。また、今回の決定を鹿児島教区教会共同体の聖職者と信徒の皆様々に知らせてください。共同体の皆様が、あなたを霊的教師（魂の師）として尊敬を持って受け入れますように。主があなたに先立って進まれます。それは、あなたが思いやりのある牧者となって、キリストの群れを見守り、大人にも子どもにも、裕福な人にも貧しい人にも福音を告げ、神の勧め、中でも、この世に正義の業が成就するよう、愛を、言葉だけではなく行いをもって実践していくためです。

ローマ 聖ペトロの傍らにて、
2018年7月7日
教皇在位第6年 フランシスコ

喜びと希望、感謝に満たされる

MEアジア会議鹿児島大会終わる

W W M E（ワールドワイ
ド・マリッジ・エンカウンタ
ー）の第43回アジア会議が
9月16日（日）～22日
（土）の期間、霧島で開催
され、最終日の閉会ミサと
パーティはザビエル教会に
会場を移し、聖歌隊と小教
区の皆さんの参加協力を得



ザビエル教会であった閉幕ミサ後に

て、盛大で心温まるひと
きとなりました。
W W M Eはカトリックの
世界的な運動で、「私があ
なたがたを愛したように、
互いに愛し合いなさい。」
（ヨハネ福音書15章12節）
をビジョンに掲げ、教会に
おいて、また世界におい
て、結婚と司祭叙階
の価値を宣べ伝える
ことを使命としてい
ます。
婚姻の秘蹟を生き
る夫婦がそのミッシ
ョンをより深めるた
めのプログラムを提
供し、日本では19
74年から約120
0組を超える夫婦と
司祭・修道者が体験
し、関東と関西、九
州地域で活動が続け
ています。
今回はアジアの11
カ国からそれぞれ司

祭と夫婦各3人の代表とオ
ブザーバーを含む総勢54人
が22日午前中まで霧島国際
ホテルに集まり、ミサと祈
り、養成、活動報告を行
いました。また会議の合間
には、鹿児島、宮崎、福岡に
加え、関東、関西のM Eの仲
間が、言葉の壁を乗り越え
て笑顔で毎日お世話し交流
の時間を持ちました。茶道
のお点前の披露もあり、遠
足では唐船の流し、温泉体
験などにも同伴してくださ
いました。
最終日の22日、ザビエル
教会に各国の民族衣装で集
合した代表を囲んで、日本
代表チームである郡山司教
様と、中野被選司教様にも
おいでいただき、15人の司
祭による日本語のミサは美
しい典礼聖歌に彩られて荘
厳に行われ、来年の開催国
である韓国に引継ぎをし



霧島市のホテルであった会議の様子

した。

懇親会場のホールでは琴
と尺八の演奏で参加者を歓
迎。各国の舞踊や寸劇が披
露され、会場から飛び入り
もあり、郡山司教様率いる
奄美の「六調」では全員の
体が自然に動き始め、司祭
たちも夫婦も神をたたえる
喜びが爆発したように踊り
続けました。
参加した各国代表から、
「日本のおもてなしは素晴
らしい、日本人の細やかな
心配りに感動した。」と、
感謝のことが閉会后に
次々と寄せられました。

日本のM Eはアジア各国
に比べて小規模ですが、九
州、特に鹿児島M Eは熱
い！「神様は小さいもの
の中にこそ働かれる。」夫
婦の愛におられるイエス・キ
リストをもっと力強く伝え
て行きたいと思っています。
ご一緒にいたいただき、支え
てください仲間とザビエ
ル教会の皆さまに感謝いた
します！
（ME日本代表 神馬宏
美・久美）

会と催し

11月

1日（木）	諸聖人 ▼聖体礼拝・カテドラル
2日（金）	死者の日 ▼平秀応修道士命日（1994年） 福者レオ税所七右衛門殉教祭・京泊天主堂跡 地・11時（集合）
3日（土）	死者の日 ▼福者レオ税所七右衛門殉教祭・京泊天主堂跡 地・11時（集合）
4日（日）	年間第31主日 ▼死者ミサ・カトリック納骨堂前広場（奄美市永田町）・11時
8日（木）	大野和夫神父命日（2016年） ▼ザビエル祭実行委員会・教区本部・19時
9日（金）	ラテラン教会の献堂 ▼メニッヒ神父霊名（聖テヨドル）
10日（土）	柳本繁春神父霊名（教皇レオ1世） ▼ガブリエル神父命日（1978年）
11日（日）	年間第32主日 ▼神修神父命日（2014年）
17日（土）	年間第33主日 ▼貧しい人のための世界祈願日 ▼聖書週間・25日まで
18日（日）	司祭評議会・教区本部・14時
19日（月）	司祭司祭会・教区本部・16時
20日（火）	コンベンツス・教区本部・10時
25日（日）	三木巖神父命日（2000年） ▼王であるキリスト ▼オリブの会・教区本部・14時
30日（金）	聖アンデレ使徒

【祈祷の使徒会】

福音宣教 祈りの意向
日本の教会 平和への奉仕
世を去った人々とその遺族

第二バチカン公会議の伝えたもの

松田清四朗神父の講演を聞いて

9月23日（日）午後、ザ
ビエル教会でコンベンツ
アル会の松田清四朗神父の講
演会があった。主催したの
は教区巡礼委員会。講演を
聞いた谷山教会の塩貝久代
さんの感想を紹介したい。

泉・聖書（み言葉）に立ち
返る②現代社会との和解と
対話③教会の自己アイデン
ティティーの見直しという
ことでした。
そして終わりに聖書通読

（文）

短歌



鴨池教会 前田儀子
雨の中南に雷のとどろくを
合図に椰子は黄の花こぼす

読みすすむ近藤芳美の歌集
を置き夜の灯のもと足の爪

切る

聖書の解読になほ物足りず
自らの予兆的解釈をなせる
パスカル

俳句

玉里教会 川越弘子
台風の通りすぎ去り子に電
話

ご協力に感謝いたします！
信者の力が結集した司教叙階式

10月8日の司教叙階式の挙行にあたり
ましては、会場設営、受付、案内、片づ
けのために大勢の信者のみなさんのご協
力をいただきました。
公共機関の施設であるため、設営と片
づけの時間が限られ、また1000人を
超える参列者が見込まれる中で、司教・
司祭団、来賓、一般の方々を円滑に案内
するには、一人でも多くの協力者が必要
でした。これに対して、大勢の信者の
方々が快く協力に応じてくださいまし
た。おかげさまで、設営・片づけは短時
間で終わり、また受付・案内も混乱なく
行えました。
皆様喜んでご奉仕くださったことに
心から感謝申し上げます。ありがとうございます。
司教叙階式実行委員会 末吉卓也

第36回シドッチ神父上陸記念祭

日時：11月23日（金）14時
場所：神父シドッチ上陸記念碑前（屋久島町小島山の瀬）及び小島公民館
主催：屋久島町・屋久島町教育委員会
共催：カトリック屋久島教会
後援：小島区
日程：開会 14時
挨拶 荒木耕治屋久島町長
中野裕明鹿児島司教
岩川修一小島区長
講話：14時15分
マリオ・カンドウッチ神父（フランスシスコ会）
移動：14時35分 小島公民館（徒歩5分）
記念講演
元文京区教育委員会教育総務課文化財保護係主任主事 切支丹屋敷跡発掘調査担当 池田悦夫 氏
閉会：16時30分
ミサ：カトリック屋久島教会

※1人でも多くの方の出席をお待ちしています。宿泊など問い合わせは、栃尾神父（種子島・屋久島教会 Tel.090-3785-9335）

聖書を発見する

本田哲郎神父の講演を聞いて

「聖書を発見する」と題して、フランスシスコ会・本田哲郎神父の講演会が10月7日（日）午後4時から、教区本部でありました。主催は鹿児島カトリック正義と平和協議会。参加者は約40人でした。

初めに本田神父が話をされ、その後みんなからの質問に一つひとつ答えられました。印象に残ったことを



「正義」とは抑圧からの解放で、「平和（シャローム）」とは傷ついた部分がどこにも放置されて

11月18日は貧しい人のための世界祈願日
いつくしみの特別聖年（2015年12月8日）の閉年にあたり公布された使徒的書簡「あわれみあるかたよ、あわれな女」（2016年）で教皇フランシスコは、年間第33主日を「貧しい人のための世界祈願日」とするよう定めました。
ご自分を小さい者や貧しい者とみなされたキリストに倣い、貧しい人、弱い立場にある人に寄り添い、奉仕するよう求められています。
不平等や不正義のない世界の実現に向けて、具体的なわざを通して神のいつくしみのあかし人となるよう、祈り求めていかなければなりません。

いない状態だと。「神はどこにいてるの？」と問いかけるとき、むしろ「私はどこにいてるの？」と問いかけない。神は上からも下からも、前・後ろ・右・左からも私を包んでいてくださり「転んでも神の中にいる」と。本田神父は「信仰」を「信頼して歩みを起こす」と、「希望」を「確かなことに心を向ける」と、そして「愛」を「人を大切にする」と表現されています。

今回は、加治屋町教会の松本敏之牧師や、障害者目線・当事者目線で県政にチャレンジする安楽ひでみさんも参加してくださいました。講演会の翌日急逝された大松正弘神父も若いころ野宿の人びとへの声掛け・おにぎりや毛布配りをし、そこに自分の原点があったと生前語っていたことが思い出されます。（文・本村裕之 撮影・永田琢朗）

KJP（鹿児島正義と平和協議会）通信 11月号

教皇パウロ6世は、私たちが活動している「正義と平和協議会」の産みの親である。教皇は第二バチカン公会議終了の2年後、1967年に「正義と平和委員会」を教皇庁に設置し、世界の各教区に開設を呼びかけた。公会議が打ち出した「現代社会との対話」「開かれた教会」の理念を具現化するものである。

第二バチカン公会議の「現代世界憲章」（1965年）は冒頭に「現代人の喜びと希望、悲しみと苦しみ、特

康由神父の聖書教室(7)

頑迷預言…

イザヤの受けた命令



イエス様の有名な言葉に「悔い改めよ。天の国は近づいた」というものがあります（マタイ4・17）。その言葉は分り易いものの、その深みを知る為にも直前で引用されたイザヤの預言に於ける「悔い改め」という言葉の使われ方とこの言葉が発せられた歴史的背景をみてみましょう（イザヤ8・23、9・1）。

イザヤの預言ではこの言葉が非常に特徴的に用いられています。預言者イザヤは神様から「行け、この民に

ない福島の人たち、これらの人々の苦しみを受けとめることだが、キリスト者の責務であるだろう。「政治の問題である」「国の政策に宗教は関わるべきではない」、という理由で、教会が消極的であるならば、「キリストの弟子」であることを自ら否定することにならないだろうか。

パウロ6世は、「現代世界憲章」の精神を継続させ、今日の教会の責任を果たすために「正義と平和委員会」の設置を公表した。「正義と平和」は聖書に根拠をもつ言葉であるが、ズいぶん誤解されている。私たちが「正義」という言葉を道徳的・法律的に理解しているからではないか。

言うがよい／よく聞け、しかし理解するな／よく見よ、しかし悟るな、と。この民の心をかたくなにし／耳を鈍く、目を暗くせよ。目で見ることなく、耳で聞くことなく／その心で理解することなく／悔い改めていやされることのないために。」と命じられました（イザヤ6・9～10）。

国の王アハズは自国を守るためにアッシリアと手を組みました。その際、アハズ王は同盟の証としてアッシリアの神々をユダ王国内で崇拜すること容認したので



異国の神を自国で礼拝することは、ユダヤの民にとってはまったく考えられないことです。このことを預言者イザヤは厳しく糾弾したのです。またこの時、如何なる強敵に晒されようとも神の救いが必ずあることを王に進言した言葉こそ、あの有名なインマヌエル預言だったのです（イザヤ7・14）。

10月14日、パウロ6世はロメロ大司教とともに、列聖された。日々正義のために働くことで、列聖のお祝いとしたい。「私たちの教会共同体が現代社会の人々とともに正義と平和の実現のために力を尽くすことができますように」（10月14日の共同祈願より）（紫原教会 山下和実）

お知らせ

▼社会問題の分かち合い

日時：11月17日（土曜日）13時～16時
場所：教区本部
内容：原発・改憲・沖縄問題についての情報交換その他